



Elisabeth
University of Music

平成19年度文部科学省
「特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)」

〈音楽家の耳〉 トレーニング 教育法の開発

—総合的音楽能力育成を目指す
教育システムの開発と実践—



THE MUSICIAN'S EAR
.....
Comprehensive Training in Musicianship

エリザベト音楽大学

より多くの人たちへ。
音楽基礎教育のレベルアップに
貢献できればと願っております。



エリザベト音楽大学
学長 中村 英昭

エリザベト音楽大学は平成20年に創立60周年を迎えます。創立以来、カトリック・イエズス会の教育精神を基盤に、音楽芸術の観点から情操豊かな人間の育成を目指し、実力ある教授陣が、学生各々の進度に合わせて一人ひとりを大切に、暖かく家庭的な雰囲気の中で充実した教育を行っています。学生は、理想的な環境の中で日々の練習や勉学に励み、学生生活を満喫しています。

さてこの度、平成19年度文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」に、エリザベト音楽大学が提出した総合的音楽能力育成教育プログラム「〈音楽家の耳〉トレーニング教育法の開発」が選定されました。

音楽基礎教育は音楽を学ぶ者にとって不可欠であり、それだけにソルフェージュや音楽理論の学習方法は全国的に確立していると考えられています。しかし選定理由に「従来のソルフェージュ教育を見直し、新た

に〈音楽家の耳〉トレーニングを開発し、音楽教育に全面的に取り入れた画期的な取り組みであり、生きた音楽に親しみ、同時に様々な音楽様式についての感覚を養うことをベースとし、『子どもにも対応可能な初歩から、大学以上の高度な段階に至る14グレードに分かれた』システムの開発は、高く評価されます」とあるとおり、新しい試みの音楽基礎教育システム〈音楽家の耳〉トレーニングが評価されたことは実に驚くべきことであり、地方にある小規模校であっても、全国的に発信できる研究が可能であることを証明できたと思います。

本学の音楽基礎教育に〈音楽家の耳〉トレーニングが採用されてから6年目になりますが、これを機に少しでも多くの学外の方々にも理解され、我が国の音楽基礎教育のレベルアップに貢献できればと願っております。今後ともご支援いただきますよう、よろしくお願いいたします。

平成19年度文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」

選定理由

従来のソルフェージュ教育を見直し、新たに〈音楽家の耳〉トレーニングシステムを開発し、音楽教育に全面的に取り入れた画期的取組です。平成12年のプロジェクト開始以来7ステップにわたって取組をすすめ、15年度の本プログラム不採用後も補助材料、手引き、視聴覚教材の開発など努力を積み重ねてきました。生きた音楽に親しみ、同時に様々な音楽様式についての感覚を養うことをベースとし、「子どもにも対応可能な初

歩から、大学以上の高度な段階に至る14グレードに分かれた」システムの開発は、高く評価されます。

音楽教育の成果は、短期間に実るものではなく、時間をかけて評価する必要があります。学生時代の成果、幼児期から導入した場合の成果など、短期・長期の成果をどのように評価するか引き続き研究が望まれます。また、本取組が「大胆な試み」だけに、第三者の評価を受けることが期待されます。

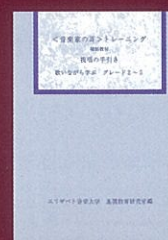


音楽家のために必要な“耳”を養成し、 総合的音楽能力の育成を目指す教育システムです。

この取組は、長年、音楽基礎教育として実施されてきたソルフェージュ教育を発展させ、日本及び諸外国での教育研究の成果を活用して、音楽の実践に必要な総合的音楽能力の育成を目指す教育システム(=〈音楽家の耳〉トレーニング)を新たに開発し、平成14年4月以降、音楽学部の「ソルフェージュ」及び「音楽理論」他の授業科目において実践してきたものです。中世から現代までの実際の音楽作品を用い、「瞬間的に音を捉える」能力の育成を目指し、音楽を「耳」で捉えてすぐに反応する「オーラル・トレーニング(Aural Training)」を数多く行います。単に音程、リズムだけではなく、音楽の表情や構造・形式、様式までも「耳」で瞬時に捉え、即座に反応できるように訓練します。子どもにも対応可能な初歩から、大学以上の高度な段階に至る14グレードに分かれた本システムの開発に際しては、初めに基本となる教科書を執筆し、その後『指導の手引き』、補助教材、DVD、CD等を順次作成して、普及活動も行ってきました。



エリザベト音楽大学編
『〈音楽家の耳〉トレーニング』(Part1・Part2)
春秋社 平成14年7月



学習者および指導者が、どのようにこの教育システムに取り組むべきかをわかりやすく解説した手引き書、DVD、CDを制作し、無償で配布で配布。

あたらしい時代に相応しい あたらしい音楽教育に 取り組んでいます。

「〈音楽家の耳〉トレーニング」は、平成14年にエリザベト音楽大学で開発された、音楽の基礎教育システムです。初心者から、音楽を専門的に学ぶ上級者までを対象とした14のグレードからなり、グレードごとに段階を追ったトレーニングを行います。音楽を学ぶとき、最も大切なことの1つは「音楽的な耳」を養うことです。

「〈音楽家の耳〉トレーニング」は、音楽家にとって必要な耳を育てる内容になっています。



「〈音楽家の耳〉トレーニング教育法」は、伝統的な「ソルフェージュと音楽理論」の教育を進化させる。

子どもをめぐる音楽教育環境が大きく変化



大学に入学する学生の音楽基礎能力に関しても、以前より幅広くなる



大学を出て、音楽活動の現場に入る



大学で学んだ「ソルフェージュと音楽理論」の教育が必ずしも十分に機能していない現実



新時代に相応しい「ソルフェージュと音楽理論」の教育システムを開発する必要性

これまでの楽譜を中心に据えたトレーニングは、文章の読み書きにより外国語を学ぶことに似ています。つまり、読み書きの訓練だけでは、実際の会話を含めた総合的な語学能力が育たないように、読譜練習のみに頼る従来の方法では本当の「音楽的な耳」を育てることは困難です。

「〈音楽家の耳〉トレーニング」では、これまで、音楽的な耳を育成するための専門的なトレーニングとして行われてきた読

み書き中心の「ソルフェージュ」に加えて、体験的に音楽の実践に必要な総合的な音楽能力の育成を目指しています。

ソルフェージュと音楽理論を別々に学ぶだけではなく、一体化させて学ぶことによって、音楽の表情や形式、様式までも耳で捉えられる総合的な能力を育成します。例えば、和声の進行を理論でのみ捉えるのではなく、「耳」でも捉えることには、楽曲分析、伴奏付け、編曲を行う際に非常に重要です。

「〈音楽家の耳〉トレーニング」教育法の特徴

この「〈音楽家の耳〉トレーニング」システムには、3つの大きな特徴があります。

特色1

中世・ルネサンスから現代に至る音楽作品を教材として使用

特色2

「オーラルトレーニング」(Aural Training)を重視

特色3

初心者から専門家のレベルまで網羅

特色1

中世・ルネサンスから 現代に至る音楽作品を教材として使用

中世・ルネサンスから現代に至る音楽作品を用いて、音程、音階、和声進行、形式、構造などの理論を体験的に学習します。

本システムで使用する課題は、そのほとんどが実際の音楽作品の中から採用されています。音程とリズムの練習のためだけに作られた無味乾燥な課題ではなく、優れた音楽作品を用い、耳のトレーニングを行うことによって、音楽全体を捉える力をつけます。

また様々な音楽に親しむことによって、学習者の音楽性を豊かにし、同時に音楽様式をも身につけます。

音楽史、作曲家、
音楽様式に対する
興味が深まる



さらにその興味から
学習意欲が湧く

相乗
効果

課題例 L. v. Beethoven (1770-1827) : Acht Lieder Op.52, 1. Urians Reise um die Welt 8つの歌曲 Op. 52 1. ウリアンの世界旅行

In einer mäßigen, geschwinden Bewegung mit einer komischen Art gesungen

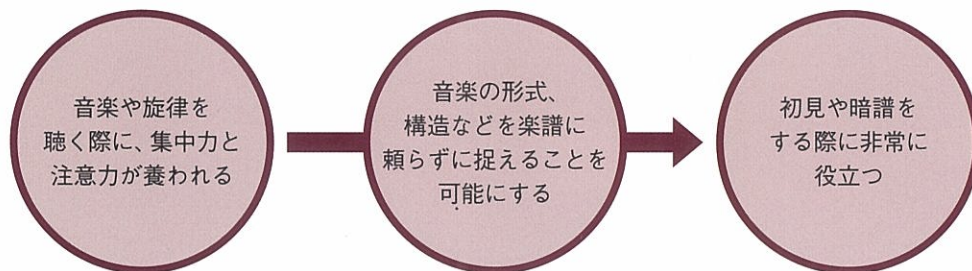
(適度に、滑稽な調子で快速に歌って)

- ① この曲は、何調ですか。音階を歌いましょう。主音、属音、導音を答えなさい。
- ② (ア)～(ウ)の音程を答えなさい。
- ③ (A)～(B)の和音の種類を答えなさい。
- ④ 4、6、8小節目の終止形を答えなさい。
- ⑤ 音楽史上、L. v. Beethoven と同時代の作曲家を答えなさい。
- ⑥ 学習したことを踏まえて、より音楽的に歌う練習をしましょう。

特色2

「オーラルトレーニング」(Aural Training)を重視

楽譜を用いずに音楽を耳のみで捉える「オーラルトレーニング」を数多く行います。



音楽家にとって必要な『耳』とは、音の高さやリズム、そして音楽の表情や流れを「瞬間的に」捉えることができる耳です。そこで、視唱・聴音などの楽譜の読み書きの練習のみに偏るのではなく、音楽を『耳』で捉えてすぐに反応し、表現につなげるトレーニングを行います。

特色3

初心者から専門家のレベルまで網羅

子どもにも対応可能な初歩から大学卒業以上の高度なレベルに至る段階的な教育法。



*グレード5または6程度が、音楽大学入学時に必要な能力に匹敵する段階であると考えられます。

また、音楽経験に関わらず、様々なタイプの学習者にも対応可能です。

「オーラルトレーニング」は耳のみで音楽を捉えるため、音楽経験に関わらず、様々なタイプの学習者に対応可能

理論の学習、楽譜の読み書きを経験していない学習者



音楽を聴くことから始めて、感覚的に捉えたことを後から理論付けることにより、楽譜の読み書き、理論的学習につなげることが可能

理論と楽譜の読み書きを中心に学んできた学習者



楽譜を用いずに集中力と注意力を持って音楽を聴くことにより、感覚、つまり総合的な音楽能力を養い、これまでに学習した理論とその感覚を結びつけることが可能

「〈音楽家の耳〉トレーニング」教育法の 授業への導入

「〈音楽家の耳〉トレーニング」システムは、エリザベト音楽大学の全学生が必修科目として受講しています。また、選択科目としても位置づけています。

必修科目

音楽理論Ⅰ～Ⅱ
ソルフェージュⅠ～Ⅱ

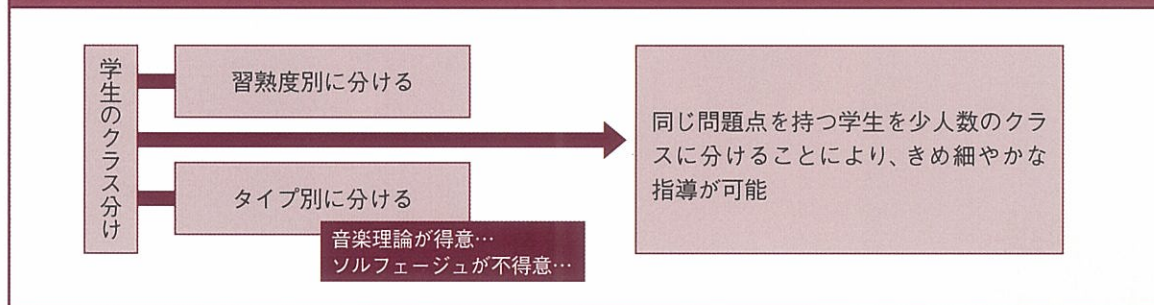
選択科目

ソルフェージュⅢ
和声学
対位法
即興演習



必修科目のクラス編成は、第3の特色を活かして、学生を習熟度別に分けるだけでなく、タイプ別に分け授業を行っています。同じ問題点を持つ学生を、少人数のクラスに分けることにより、きめ細やかな指導が可能となっています。

本学での授業 「音楽理論Ⅰ～Ⅱ」「ソルフェージュⅠ～Ⅱ」



「〈音楽家の耳〉トレーニング」特色と有効性

「〈音楽家の耳〉トレーニング」教育法は、総合的音楽能力を育成するためのシステムであるので、このシステムを使用して学習するために、特別に課題を用意する必要はありません。手元にあるCDなどの

音源、あるいは、専門実技で取り組んでいる曲も、課題として用いることができます。

このシステムで得た総合的音楽能力は、専門実技を演奏する際におおいに活かすことが可能です。



Elisabeth University of Music

エリザベト音楽大学

〒730-0016 広島市中区鞆町4番15号

TEL 082-221-0918 FAX 082-221-0947

URL <http://www.eum.ac.jp>

E-mail kikaku01@eum.ac.jp